

普及活動の成果

課 題 名	「ゆめのか」拡大による次世代 につなぐいちご産地づくり	振 興 局 名	県北振興局
活 動 対 象	JANAがさき西海いちご部会	実 施 期 間	平成30年4月～平成31年3月

【対象の概要】

佐世保市、平戸市、松浦市、佐々町のいちご生産者で構成されるいちご生産部会。
農家戸数87戸（うち、認定農業者62戸）、いちご栽培面積は13.4ha。

【課題設定の背景】

いちご多収性品種「ゆめのか」は大玉で連続出蓄性があり、高収量が見込める品種で、「ゆめのか」を導入することで収量が向上して所得向上につながる。導入推進の結果、県北地域平成29年産栽培面積は、全面積13.4haのうち12.5haまで広がった。

- 1 高齢化等により、栽培者数・産地面積は縮小傾向にある。将来的な産地強化を図るためには、担い手の育成や「ゆめのか」の栽培対策支援を強化していく必要がある。
- 2 自動換気装置や炭酸ガス発生装置等の環境制御システムを導入している生産者は増加している。また、H29年度より立ち上げた環境制御技術勉強会により、ハウス内環境を把握した適切な栽培管理技術の実践が普及し始めている。今後は、技術の普及拡大を図る必要がある。

【活動目標】

- 1 研修会を通じた若手生産者の経営力・技術向上や就農希望者の就農定着に向けた支援を行い、産地を牽引する担い手の確保・育成を図り、「ゆめのか」に対応できる産地づくりを支援する。また、「ゆめのか」の栽培対策支援により収量の向上を目指す。
- 2 生産者の環境制御技術導入状況に応じた段階的な技術普及と実践的な環境制御技術勉強会の支援により収益性向上を目指す。

【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】

いちご担当者会を開催し、活動に対し関係機関と協議を行った。

- 1 県北若手いちご塾：JA、市町、振興局
- 2 「ゆめのか」栽培対策支援：JA、中央会、市町、振興局
- 3 複合環境制御技術確立支援：JA、技術普及班、振興局

【活動経過】

- 1 関係機関との連携
 - (1) JA、市町担当者と今年度の補助事業活用による施設等整備について協議し、事業計画や資金計画の作成支援を行った。
 - (2) 環境制御機器導入推進のため、機能及び価格面で優位と思われるハウス内環境測定機器をメーカー協力の下、デモ機として管内2箇所に設置し、その優位性を確認した。
 - (3) 産地の持続的な発展のため、将来のいちご産地振興方針の策定及び実現に向けた取組みを関係機関及び部会一体となって進めることを振興局からJA、市町及び部会役員へ提案し、合意を得た。7月に部会個別面談を実施し、その結果を基に各経営体の発展とそれを支える産地の仕組みづくり等の産地振興方針を示した振興計画を策定し、その内容を部会総会時にJAとともに生産者へ説明した。また、その計画を実行していくため、JA及び市町担当者とアクションプランを検討し、中長期で取り組む事項や役割分担を整理、共有した。
- 2 県北若手いちご塾
 - (1) 管内の若手生産者を対象に先進地視察研修を10月に開催し、環境制御技術導入による高単収かつ大規模雇用型経営を実現している他県優良事例を紹介した。また、関係機関で連携し、JA主催で関西市場での販売促進研修が開催され、8名の参加があった。
- 3 「ゆめのか」栽培対策支援
 - (1) 各地区においてJAと「ゆめのか」の安定生産に向けた適期管理の指導を行った。
 - (2) 全部会員を対象に経営改善面談を実施し、中央会、JA及び市町と生産者へ助言を行い、生産者自ら

改善点の把握や次作の目標設定ができるよう促した。その進捗状況を確認するため、個別巡回や次世代人材投資事業受給者面談時を活用し、中間面談を行った。

4 複合環境制御技術確立支援

- (1) 昨年度から開始した環境制御技術の勉強会メンバーで5月に実績検討を行い、厳寒期における積極的な加温の効果等について意見交換を行った。
- (2) JA、市町及び振興局の園芸担当者の技術力向上を目的に農振協野菜部会において環境制御技術に関する研修会（講師：技術普及班、振興局）を行った。
- (3) JA及び市町担当者で生産者のハウスごとの環境制御機器導入状況を整理、共有し、今後の環境制御技術の推進対象者の選定や計画的な制御機器の導入（補助事業活用含む）の検討を行った。また、部会の現地検討会等の折に、今年度の環境制御技術勉強会の開催を周知し参加者を募った。その後、JAと連携し研修会を開催し（参加者21名）、植物生理の基礎知識や勉強会のやり方、生育調査方法等を説明した。12月から勉強会を佐世保及び平戸地区で実施し（参加者14名 機器所有者）、SPDCA サイクルに基づく栽培管理の実践を促した。

【普及活動の成果】

1 関係機関との連携

- (1) H30 年度施設等整備実績：ハウス 20a 1 戸（H30 年産から栽培開始）、高設栽培システム 84a 7 戸、自動換気装置 96a 5 戸、炭酸ガス発生装置 55a 5 戸
- (2) ハウス内環境測定機器のデモ機設置により、その優位性を関係機関で共有し、今後の部会への推進機器として選定できた。
- (3) 産地振興計画の策定により部会及び関係機関と産地の将来像や取り組むべき事項を共有でき、意識統一が図られた。

2 県北若手いちご塾

- (1) 先進地視察研修に15名（うち、佐々町地域おこし協力隊3名）の若手生産者が出席し、環境制御技術や大規模雇用型経営に対する理解を深めることができた。

3 「ゆめのか」栽培対策支援

- (1) H30 年産「ゆめのか」作付面積は 12ha となり、全面積に占める割合は 95%（前年 93%）と川崎調に品種転換が進んだものの、生産者の高齢化に伴う栽培面積の減少により全体面積自体が減少し（H30 年産：12.7ha、H29 年産：13.4ha）、目標達成に至っていない。

4 複合環境制御技術確立支援

- (1) 勉強会参加者14名に対して単収向上を図るための環境制御技術の理解と SPDCA サイクル実践の重要性に対する意識が高まり、勉強会では生産者間の活発な意見交換が行われ、参加者の単収（1 月末時点）は、1,802kg/10a と部会平均に比べ 135%増収となっている。

【対象の声】

環境制御技術に取り組む中で、定期的に生育調査を行い、その結果をもとに栽培管理を改善することの重要性を実感できている。今後とも支援をお願いしたい。

【今後の課題】

1 関係機関との連携

- (1) 産地振興計画の実現に向けて、部会及び関係機関と連携しアクションプランを実行していく。具体的に、環境制御技術勉強会参加者の実績や他優良事例を基にした環境制御技術の確立、パッケージセンターの運営改善による選果経費の低減及び新規就農者及び就農予定者の確実な就農定着支援を行う。
- (2) 次年度以降も計画的な環境制御機器の導入推進を図るとともに、既導入者に対して環境制御技術に対する理解度の把握を行い、生産者の技術レベルに応じた支援体制の構築を図る。

2 県北若手いちご塾

- (1) 環境制御技術習得に向けた研修等への参加により技術向上は図られているが、本会員が主体的に産地を牽引する担い手となるような仕掛けが重要であり、受講型の研修だけでなく、討議等を交えながら、いちご産地担い手の育成を図る。

3 「ゆめのか」栽培対策支援

- (1) 「ゆめのか」の安定生産に向けて、関係機関と連携し現地指導を行う。
- (2) 経営改善面談で各生産者が設定した目標達成に向けて適宜助言を行うとともに、収穫終了後に目標の達成状況を生産者、JA 及び振興局で確認し、次年産に向けた改善点を整理する。

4 複合環境制御技術確立支援

- (1) 3 月末時点での勉強会参加者の収量実績を把握し、参加者が実践した環境制御技術の増収効果を分析し、次年度以降の技術指針の参考にする。また、勉強会については、生産者がより主体性をもって実施できるよう見直しを行う。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】 なし

【発表・参考資料】 なし